

令和6年度第1回高知県産業振興計画フォローアップ委員会観光部会 議事概要

日時：令和6年10月21日（月） 11:00～12:30

場所：高知共済会館 3階「藤」

出席：部会員10人中、10名が出席

議事：（1）第4期産業振興計画＜観光分野＞の取り組みの総括について

（2）第5期産業振興計画＜観光分野＞の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性について

議事（1）（2）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

（1）第4期産業振興計画＜観光分野＞の取り組みの総括について

（黒笹部会員）

- ・第4期産業振興計画について、スポーツツーリズムの強化と宿泊施設における満足度が未達成であると説明があったが、理由を詳しく聞きたい。
- ・観光拠点の整備数とあるが、単に数ではなく、高知らしい観光拠点を造っていくことが大切。牧野植物園は、まさに高知らしい観光拠点だと思う。高知らしい観光拠点はどんなところがあるのかといった議論を深め、可能性があるのであればこちらに力を入れていき、数から質への転換も考えていくべきではないか。
- ・外国人の体験志向は非常に強く、日本人はつまらないと思っていることでも外国人は好むことがあるので、体験というキーワードをインバウンド施策に入れることが大切。どんな体験だったら喜んでもらえるのかを常に考える癖をつけるべき。

（谷内課長）

- ・スポーツツーリズムの強化が未達成であったことの理由について、新型コロナの影響により、プロスポーツのキャンプや大会が軒並み中止になったことや無観客での大会開催といったことが要因。現在はほぼ回復しており、来ていただいた方により楽しんでもらえるような仕組みをつくったり、アマチュア合宿の取り組みを市町村と一緒にしているところ。

（中村課長）

- ・宿泊施設における満足度について、これは宿泊施設でアンケートを取っており、その結果を積み上げている。料理の説明や、施設の説明等が一部不足していたことが、少し満足度を下げている。また、新型コロナの影響で、宿泊施設内でゆっくり過ごされる方が多かったことが厳しめの評価に繋がったと考えられる。令和4年度からは、宿泊施設の魅力向上として、宿泊施設内や宿泊施設周辺含めて魅力アップにつなげている。また、セミナーも毎年開催しており、アンケート結果もしっかりとフィードバックし、宿泊施設と連携していきたい。

(小西部長)

- ・高知らしい観光拠点について、数より質も大切であると考えている。他県にないものをしっかりと掘り起こしていくといったことも大事。例えば、香美市にあるアンパンマンミュージアムはやなせ先生自らがプロデュースをして、想いの詰まった記念館になっている。県外にもアンパンマンミュージアムがあるが、香美市のアンパンマンミュージアムはやなせ先生の生き様や想いが詰まっているところが高知らしいところ。他との差別化を図り、他県との違った魅力を発信していきたいと考えている。そのほか、どっぷり高知旅キャンペーンでは、土佐清水市の清水サバに焦点をあて、清水サバに注目した体験や散策で1日中楽しめるプランを造っているところ。
- ・外国人の体験志向が非常に強い点もおっしゃるとおりだと思うので、外国人の方に対しては体験をしていただく場面を造っていきたい。

(2) 第5期産業振興計画<観光分野>の令和6年度上半期の進捗状況及び強化の方向性について

(三井部会員)

- ・地域通訳案内士のガイドスキルの向上の件についてであるが、実際に活躍できる場が少ないと考えられているようだが、実際はそうでもない。地域通訳案内士の資格を取得された方の話を聞くと、知識がない、経験がない、一步踏み出せないといったことが課題となっている。資格を取っても、その後のフォローアップが必要。今後、研修を充実させていくことが必要。
- ・高知市内のタクシーはある程度はカード払いが対応できているが、それ以外の地域ではカード払いの対応はまだまだな状況。
- ・キャッシュレス対応ができる観光地であっても、ネット状況が弱く、キャッシュレス払いができないことがあり、改善が必要。
- ・台湾の大学生を受け入れるのはとても大事なことだと思っている。あるホテルでは、台湾からの研修生を受け入れた結果、台湾の宿泊者が増加したと聞いた。自分たちも、台湾に行った際に、台湾のホテルで日本人研修生がいると安心する。インターンシップで単位が取れば参加者が増え、相乗効果も生まれてくるのではないかな。
- ・2年ほど前に、とさでん交通さんに依頼をしてJRのアンパンマン列車と路面電車のアンパンマン電車がうまく接続するようにお願いしたところ実現した。日曜日の11時30分(週1)しか接続できていないため、毎日接続できれば「あんぱん」が盛り上がり、良いおもてなしになるのではないかな。

(山本課長)

- ・地域通訳案内士の資格を取得しても仕事をされていない方や一步を踏み出せない方、不安がある方については、現地の研修を充実させ、現場での体験機会を増やしていきたいと考えている。観光事業者・旅行会社・広域の方々等とのマッチングの場を多くもつようにしたり、ガイドとして仕事をどうやって造っていくのかといった研修内容も計画し

ている。稼げるガイドとして、高付加価値化された商品を作っていき、既にガイドをされている方には、こちらにもチャレンジしていただきたいと考えている。

- ・キャッシュレス化については、受入側で Wi-Fi を導入する等、キャッシュレス対応を広く呼びかけていきたい。

(中村課長)

- ・台湾からの学生の受入について、今年度からスタートしたが、宿泊施設の方々からも前向きな意見をいただくことができたため、継続していきたいと考えている。また、これを機に誘客に繋がることも考えていきたい。
- ・JR のアンパンマン列車と路面電車のアンパンマン電車の件であるが、土佐くろしお鉄道さんにもやなせさんが残してくれたキャラクターがあるので、乗って楽しむのではなく、貴重な写真が撮れるスポットなど、最大限に生かすことができる取り組みを進めていきたい。

(樋口部会員)

- ・アンパンマン列車とアンパンマン電車の頻度が少ないことについて、本当は毎日運行できればいいが、結構な頻度での検査が必要で安全性の観点より制約がある。誘客素材として、できるだけ協力できるように確認・検討します。

(黒笹部会員)

- ・外国人富裕層の誘客が見込まれるコンテンツの磨き上げや体験内容の充実は具体的にどんなことがお聞きしたい。
- ・中山間の分散型宿泊とは、具体的にどのようなことなのか。
- ・今後、インバウンドの富裕層の来高が期待できるガストロノミーツーリズムの拠点として、有名シェフプロデュースのオーベルジュ誘致に舵を切るべきではないか。

(小西部長)

- ・国の事業として取り組みとして、関西空港からヘリコプターで高知空港に来ていただき、リムジンタクシーで津野山までいっていただくプランをやっている。特別な体験として津野山神楽を特別に演舞して鑑賞をいただいております、商品化につながるよう取り組みを進めている。
- ・分散型宿泊については、土佐清水市の窪津で3棟の空き家をリノベーションした。この秋あたりにはスタートできるかもしれない。
- ・オーベルジュについては、地元の食材を入れた高付加価値化に繋がるよう進めている。

(黒笹部会員)

- ・いわゆる一般の民泊を含めて分散型と捉えているのか。

(小西部長)

- ・そのとおり。簡易宿泊の許可をとって実施していただく。ここでは、漁師体験や市場等と連携し、新たな雇用もできるのではないかと期待をしている。このような事例が県内の中山間地域に広がっていけばいいと考えている。

(森部会員)

- ・経済同友会では、今月頭にタイガーエアやスタートラベルを訪問した。空港の設備や人的なところで送客に時間がかかってしまうため、受入側のハード面とソフト面をしっかりと対応をしてほしいとの要望があった。一般座席として解放されている 20 席程度の座席数を拡大したい意向はあるが、入出国の際の手続きにおいて高知側で混乱が生じることが想定され、一般座席を増やされてしまうと高知空港では対応できないといったことが起きている。一般座席を増やすには、柔軟な支援が求められるので、そこをお願いしたい。
- ・キャッシュレス対応は十分とは言えないので、購入機会の喪失を防ぐためにも、キャッシュレス対応を進めてもらいたい。
- ・アジア圏ではアンパンマンは人気があり、現地の LCC は比較的若い客層が多いため「あんぱん」の情報をもっと発信するべき。タイガーエアの担当者は「あんぱん」のことを知らなかったが、台湾ではアンパンマン人気もあるためもっと詳しい情報が知りたいと言っていた。
- ・四国各県の空港で誘致が進められているが、海外からみれば四国を 1 つとしてまとめて見ている。四国 4 県がまとまって国際線の誘致を進めるべきではないか。例えば、台湾は高知県、ベトナムは香川県といったように棲み分けをして、関西空港から入ってきた客が、四国のどこかから出るといったように四国で協力して海外誘客を進めるほうがコストダウンで効率が良いのではないか。

(小西部長)

- ・タイガーエアの座席数については、25 席が個人向け座席として売り出されているが、人的な問題や施設面での課題があるので、座席の拡大は慎重にしていく必要があると考えている。ハンドリングを行っている会社等とも協議は続けていきたい。
- ・四国 4 県がまとまった取り組みについては、四国ツーリズム創造機構と共同で商談会やプロモーションをやっている。話にあった 4 県がまとまった国際線の誘致については、4 県それぞれの空港の考えもあるので、ここをまとめるのは至難の業と考えている。

(北古味部会員)

- ・スポーツによる入込客数について、もう少し明確なカウント方法を確立するべきではないか。
- ・野球とサッカーの 2 極化とあるが、それ以外の種目でも各団体と施設のマッチングもあると思うので、戦略的に事業ごとに取り組みを進め、各種競技団体からのヒアリングも必要ではないか。
- ・外国人材の活用については、龍馬学園だけでも日本語学科が 120 名おり、2 年後で 200 名程度になる。高知に来てくれた留学生をいかに地元の宿泊事業者や観光事業者とマッチングさせるかを念頭におき動いている。県庁内でも連携して取り組みされているのか。

(小西部長)

- ・スポーツによる入込客数について、色々な大会に参加をされた人数を積み上げている。

把握できていないカウントもあるため、カウント方法については改善していきたい。

- ・戦略的に事業ごとにヒアリングすることは大切であると思うので、そういったヒアリングも進めていきたい。
- ・外国人材の活躍推進については、他部局とも連携して取り組みを進めていきたい。

(岡村部会員)

- ・瞬発力のある施策に取り組まれていたり、人材の育成、分散型宿泊等、強化の方向性としては非常に素晴らしいと思う。
- ・台湾6大学と日本4大学（そのうち1大学は高知大学）で、地方創生をテーマとした日台連盟をやっている。ここで実施しているプログラムの1つとして、地方へのインターンシップの取り組みを開発した。台湾の暨南国際大学の学生のインターンシップ先として高知県内の旅館・ホテルをお繋ぎしている。台湾では、高知の認知がまだまだ低いので、インターンシップでは高知の観光を学んでほしい。誰もが知っているビッグコンテンツで仕事をするのではなく、オリジナルのコンテンツにしていけることが高知の強みであると思う。こういった点をインターンシップに仕掛けていきたい。
- ・地域の身の丈に合った高知らしい観光を進めていくことが大切だと考える。その地域をどのようにしていきたいかを考え、地域らしいKPIをつくることで、高知らしさが出てくると思う。

(小西部長)

- ・台湾との交流は高知にとってもプラスになり、ありがたい。
- ・地域の身の丈に合った高知らしさとして、自慢の食や県民性といったところを訴えていきたいと考えているので、そういったKPIの作り方も研究をしていきたい。

(町田部会員)

- ・クルーズ船の寄港が増えていることもあり、帯屋町商店街等にもたくさんの外国人の方に来ていただいている。数年前にクルーズ船を対象としたアンケートを実施していたと思うが、現在もアンケートを実施しているのか。商店街の小さな事業者に対しても、アンケート結果をフィードバックすることで、どういった点がニーズがあるのか、どういったことが喜ばれるのかを把握することができ、おもてなしにも繋がってくると思う。

(小西部長)

- ・クルーズ船の傾向としては、新型コロナ以降は中国発の船が止まっている状況。現在はヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの方等が主流になってきていると思う。
中国船も徐々には回復してきている。
- ・現在も、アンケートは実施しているため、商店街の方々にしっかりとフィードバックをしていきたい。併せて、キャッシュレス化も粘り強く働きかけを行っていきたい。

(鎌倉部会員)

- ・JRのアンパンマン列車と路面電車のアンパンマン電車が重なることがあるということを今日初めて知ったが、社会問題としてかなり報道されたように、ローソンと富士山が重なるというだけであれだけの人が集まったりする。重なる機会をこれ以上増やすことが

難しいのであれば、むしろそれを逆手にとって、あるタイミングで非常に珍しい写真が撮れるということを、あざとくならないように上手く情報発信できれば人を呼ぶ材料になるのではないかと思う。どういった発信をすれば効果的なのかを考えて発信していただければと思う。

(小西部長)

- ・皆様方の貴重なご意見、ありがとうございました。

(以上)